



JSS 白子 通信 2号



みなさんこんにちは。水泳の季節になり、学校では水泳授業がはじまります。そして水遊びの時期も増えますね。水難事故は【6月～9月が要注意】なんです。

⚠ 水難事故 ⚠

2012年度のデータが不足しているため、2011年度の調査によると全国で水難事故が発生した件数は1,396件(内、水死者795名)とあります。やはり中学生未満の子供件数が多いようです。特に6月～8月の発生件数が年間の49.7%を占めています。子どもたちにとっては、待ちに待った夏休み、川や海の冷たい水が大好きな季節です。しかし、危険もたくさん潜んでいるのです。

忘れていませんか？ 日本が島国であることを…



- 主に水難事故の原因は・・・
- ◆ 子どもに河川は危険な場所！！
 - ◆ 服が凶器になる
 - ◆ 親がちょっと目を離れたことでの事故
 - ◆ おぼれた時の恐怖とパニック
 - ◆ 離岸流 などなど

お任せください！！安全水泳指導を10年前から導入

JSSでは、子どもたちに水の危険性を理解させるために、安全水泳を指導カリキュラムに取り入れてます。上級クラスでは、月の1回目の授業で、水難事故の原因である服が凶器となることから着衣水泳を取り組んでいます。
「水から身を守る術を持つことで安全に楽しく子どもたちに、この夏を過ごしてもらおう」

それが私たちの想いです！

コーチのひとりごと…「泳げるとは？」

「私の子ども泳げるんです」と保護者の方が申告してきました。

しかし、泳力を見てみると10mほどバタ足ができました。日本赤十字社水上安全教本によると・・・

- 連続して100m以上泳げる
- 泳ぎの型を変えずに泳ぐ
- 呼吸を途切れなくしながら泳ぐ

とあります。

「泳げる」という自信から水難事故に繋がることもありますので「事故から自分の身を守る」ことを第一に水泳指導をさせていただいています。

